

24 透析カードの作成と運用までの取り組み

医療法人金剛 松塩クリニック
林 正明 桑澤 和彦 寺島 賢次

I はじめに

震災は時を選ばず甚大な被害を与える。緊急事態に備え、患者が常に必要な情報を携帯している事で緊急透析に伴うリスクを減らし、スムーズで安全な治療を提供する手助けになると考えた。

II 研究の目的

簡潔で明瞭な内容を示し、利便性、経済性、耐久性を備えた緊急時に役立つ情報媒体を作成する。

III 使用器具

ノートパソコン、ファイルメーカープロバージョン7（以下ファイルメーカー）、リライトカード、リライトカードリーダーライターAR100（以下リーダーライター）、LAN環境など。リーダーライターの仕様種別がUSB接続とネットワーク接続の2タイプがあり、設置場所に自由度が求められるネットワークタイプを開発対象として選択した。院内LAN環境さえあれば、どこでも入力作業を行うことが可能であり、リーダーライターを設置する場所も透析室のカウンター、受付など都合の良い場所を選択することが可能である。また、リーダーライターは複数個所に設置することも可能であり、患者の都合の良い場所でデータの更新が可能である。

IV 結果

条件を変更しても字が読みやすく、耐久性、携帯性に優れた情報媒体となった。また、ファイルメーカーを採用した事で操作が簡易であり、情報の編集やレイアウトの変更も施設の要望に柔軟に対応する事が出来た。

しかし、パソコン自体に苦手意識を持っている職員も多く、情報の修正やソフトの立ち上げなど

基本的な操作でつまづく場面が見られた。また、患者から、「内服薬の情報は入らないのか。」という質問があった。内服薬の情報量は多いため、テレホンカードサイズの面積に載せる事は困難である事と、現在配布している薬剤情報を携帯してもらうように説明した。

V 結語

拡張として、日機装社製フューチャーネットとの連動を考えている。簡単な方法としてはフューチャーネットからデータをcsvファイル形式で出力して、Excelやファイルメーカーでインポートする。そのデータから必要な情報のみ透析カードに拾い上げる。これには製造メーカーの協力が必須であるが、入力フォームさえ固定しておけばデータをペーストするだけで更新可能となる。また、この情報に付随して入れる事が出来るドライウエイトや体重増加量、リンやカルシウムなど血液データの推移をグラフ化して比較するなど治療に役立てる事も可能である。

VI 今後の課題

透析条件変更にかかわる職員の教育、故障時の対応が出来る選任スタッフの育成などの検討が必要である。また、近隣の透析施設で同様のシステムを導入する事で統一された情報の管理や運用性の拡充などの発展を図りたい。

別刷請求先：林 正明 〒399-0035

松本市村井町北 1-9-78 松塩クリニック